直行 高木

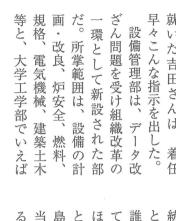
元東電社員、 東京都市大学工学部 原子力安全工学科 教授

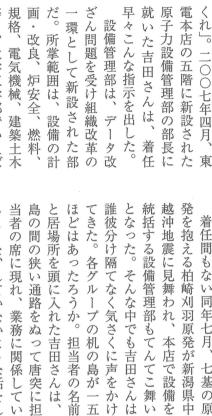
持ち前の人柄が所員鼓舞し

て危機

辩

だ。 早々こんな指示を出した。 ざん問題を受け組織改革の 就いた吉田さんは、着任 原子力設備管理部の部長に 電本店の五階に新設された くれ」。二〇〇七年四月、東 の入った座席表をつくって 画·改良、炉安全、燃料、 一環として新設された部 設備管理部は、データ改 「グループ全員の 所掌範囲は、 電気機械、 設備の計 建築土木





東京電力株式会社

元福島第一原子力発電所 所長 (写真提供:東京電力)

S

れ、いつの間に の結束も強

か

部

ようで人情味にあ

は、やはり親分の

るような、していないような話をし 紳士的というより ある。その口調は て去っていくので

独特な魅力を表現 まっていった。 するのは難しいの 吉田さんが持つ

七月九日死去

58歳

越沖地震に見舞われ、本店で設備を 発を抱える柏崎刈羽原発が新潟県中 員の名前と顔を把握することから始 名以上の社員がいた。まずは部下全 仕切りのない長細 学科の大半をカバーする広範さで、 着任間もない同年七月、七基の原 吉田さんらしいやり方だ。 い大部屋に一〇〇 内で、

める。

〇一一年の東日本大震災だ。 年には上述の中越沖地震、そして二 事故対応にあたっている。二〇〇七 も携わり、 し高速増殖炉 (FBR) れが、電源喪失した福島第一原子力けて醸成されたものに違いない。そ 署に吉田さんがいて危機回避に努め 陥っている時、偶然にも直結する部 が、そして日本の原子力界が危機に から四年間、 なる拡大を食い止める力となった。 発電所の現場をまとめ、事故のさら んへ寄せる信頼はこうして時間をか 最初ではない。 てきた。 遡ると吉田さんは一九九五年七月 福島事故は最大であるが、 同年末に起きたもんじゅ 電事連原子力部へ出向 多くの社員が吉田さ 開発業務に 東電

抜きんでた、人間的に広く深い魅力 あった。四万人の社員を抱える東電 もそんな気にさせる不思議な力が が、何とかしてみようか」と、誰を なに手一杯の業務を抱えていよう だが、「吉田さんに頼まれたら、 を持っているもんなんだなあ」と感 店部長に就く人は、さらにそこから に長けた優秀な人は多くみたが、「本 じたのを記憶している。 頭脳明晰で技術力や管理能力 どん

> それは至極明白だった。 さやかれたが、私は「そんなことは 事故直後、巷で所員の全員撤退がさ 社員の顔を知っている私にとって、 はない。吉田さんを、そして多くの していた。東電の誰に尋ねたわけで 決してありえない、誤報だ」と確信

実のところ今でも東電の人気は高 る。都市大からも数名が入社する予 わせていた新規社員採用を再開す 励された。来春、 若者の育成をしっかり頼むよ」と激 た時期でもあり、「これからを担う ネッサンスで業界に勢いが戻ってい 会を開いてくれた。当時は原子力ル する際、吉田さんは少人数での壮行 ば、半数近くが手を挙げたのには 定だ。原子力を志す学生の間では、 何ら責任のない彼らが事故収束関連 し技術など、事故収束に関する研究 いた。さらに卒研生や院生は、環境 人」と、元社員として控えめに問え い。学部の授業で「東電を希望する とすじの光をみる思いである。 研究に積極的なのは、 テーマを希望する者が少なくない。 放射能挙動や溶融燃料デブリ取り出 二〇〇八年三月に私が東電を退職 東電は事故後見合 暗闇の中にひ 驚

のことは我々に任せて、 吉田さん、人は育っています。 どうぞ安ら